

# オアシス新聞

第十九号

飛んで飛んでどこかへ飛びまわるツバメ

桜の花が咲き暖かくなっていると、スーイスーイと飛び交う黒い姿が目につくようになります。二つに分かれた長い尾が特徴的なツバメです。その形は男性の礼服『燕尾服』としてもおなじみです。

大部分のツバメはフィリピンや台湾など暖かい国で冬を過ごし、春から秋にかけて日本で繁殖をする夏鳥ですが、中にはシベリアで繁殖して冬の間は日本で過ごす『越冬ツバメ』という少数派もいます。

ツバメは民家の軒先に巣を作ることが多く、昔からツバメの巣がある家は縁起が良いなどと言われており、商売繁盛や豊作の象徴ともされてきました。ツバメはあえて人通りの多い民家の出入り口に巣を作ることにより、外敵から身を守っていると言われています。通常あまり目にするのができない野鳥の子育てが間近で観察できることも、ツバメが愛着を持たれる要因のひとつなのでしょう。巣の近くを通った時、気配を察知したヒナ鳥たちが一斉にぱっと口を開くさまは、見ていてとても微笑ましいものです。巣は主に泥と枯草からできており、一度作った巣は次の年も補修しながら再び使うようです。最近では田んぼが少なくなってしまうため、ツバメも巣材を集めるのが大変なのではないでしょうか。

ところでツバメが電線にとまっている姿はよく見ても、スズメのように地面に降り立つ姿はほとんど見ることがないのではないのでしょうか。ヒナにエサを与えるときでさえ、はばきながらヒナの口にエサを押し込むとすぐに飛び立つせわしなさは、実はツバメは飛翔能力がすぐれています。脚は短く歩行には適していません。したがってエサを捕らえるのも飛びながら空中で、水を飲むときでさえ水面をスレスレを飛びながら飲んでいくのです。思わず感嘆！ですよね。

